

令和7年度 城山中央小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

基本目標 主体的な学び、豊かなまごころ、健やかな体を持ち、地域とつながりよりよい社会と未来の創り手となってたくましく生きる児童を育成する。

- 目指す児童像
- ・ 進んで勉強する子ども（かしこく：知）
 - ・ 思いやりのある子ども ・ 喜んで働く子ども（なかよく：徳）
 - ・ 健康で明るい子ども（たくましく：体）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「まごころふれあう城山中央小学校 ～城山を愛し、どこでも生きていける基礎の育歳～」
—よりよい社会と未来を創る児童が仲間と楽しく学び、居がいを感じる学校づくり—

- ・ 児童が仲間と楽しく学び、居がいを感じる学校
- ・ 教職員が児童とふれあい、教え育てる喜びを感じる学校
- ・ 保護者や地域住民から学校の取組に信頼が寄せられる学校

以上の実現を目指し、学校が家庭や地域と手を携え、まごころふれあう学校経営を展開していく。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 児童が仲間と楽しく学び、居がいを感じる学校づくり
- ① 児童一人一人が自ら考え活動する主体的な学びの実現を図るため、協働して学びに向かう集団をつくる学級経営の充実を基盤とした教育活動を展開する。
 - ②○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して各教科固有の楽しさを味わい「見方・考え方」を働かせる学習活動により、考えや理由を明確にできる思考力等を育む。
 - ③○児童が人や自然とのかかわりを通して主体的につながる規範意識、思いやりや自然愛護等のまごころを培い、活動の源となる体力の向上に努める。
- (2) 教職員が児童とふれあい、教え育てる喜びを感じる学校づくり
- ① 課題解決に協働する教職員集団づくり及び主体的に指導力を向上する人材育成に努め、チームとしての学校力を高める。
 - ② 働きがいと豊かな生活の調和を意識しながら職務を遂行できるように、働き方改革を継続する。
- (3) 保護者や地域住民から学校の取組に信頼が寄せられる学校づくり
- ① 歴史と伝統を踏まえ、教育の精神や校風を継承し、GIGA スクールの構想やSDGs等を視野に入れた発展に努める。
 - ② 社会に開かれた教育課程を具現化するために、地域の教育力を生かした教育活動を充実する。
 - ③○学校園教育ビジョン小中一貫教育を推進するとともに、学校園との連携による地域の特色を生かした教育を推進する。

【城山地域学校園教育ビジョン】

ともに学び合う城山っ子を育む地域学校園

合言葉は「愛」みんなで育てよう！自分を愛し、仲間を愛し、地域を愛する城山っ子

4 教育課程編成の方針

日本国憲法、教育基本法、学校教育法、小学校学習指導要領、栃木県「指導の指針」、「宇都宮市学校教育推進計画」・「宇都宮市学校教育スタンダード」・「指導の重点」に基づき、教育目標達成のための経営方針や努力点、学校評価の反省を十分踏まえて編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営 ○児童が仲間と楽しく遊び、居がいを感じる学校づくり
- (2) 学習指導 ○互いに認め合い、主体的に学ぶ児童の育成
～書く活動を通して自己表現し 生き生きと学び合える 指導の工夫～
- (3) 児童生徒指導 ○思いやりの心を持ち、自主的・主体的に行動ができる児童の育成
～人との関わりを深める活動を通して～
- (4) 健康（体力・保健・食育・安全）
○健康や安全、運動について仲間とともに進んで学び、自分で自分を高めようとする児童の育成
～活動量を確保した体育授業の実践や体を動かしたくなる体育的環境の整備を通して～

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価								
1-(1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A 1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>⇒児童の肯定的回答 85%以上</p> <p>⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人が考え, 自ら活動する主体的な学びの実現 ・基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と, それらを活用する力の育成 ・各教科等の「見方・考え方」を働かせた, 学び合いなどの協働的に課題を解決する学習活動の充実 ・探究心をかき立てる体験活動の工夫 ・自分の考えを持ち, 書く活動を通して自己表現できる児童の育成。 	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 443 1458 607"> <tr> <td>児童</td> <td>89.9%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>80.6%</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td></td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>94.7%</td> </tr> </table> <p>児童・教職員ともに, 数値指標を上回った。ペア・グループ学習を通して, 学習指導の工夫・改善を図ってきた。「書くことキャンペーン」を行い, 言葉への意識を高められるようにしてきた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>具体的な取組を継続し, 基礎・基本をしっかり身に付け, 自分の考えを表現できるよう根気強く支援を行う。</p>	児童	89.9%	保護者	80.6%	地域住民		教職員	94.7%
児童	89.9%											
保護者	80.6%											
地域住民												
教職員	94.7%											
1-(2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A 2 児童は, 思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>⇒児童の肯定的回答 90%以上</p> <p>⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育の推進 ・人権感覚・人権尊重の態度の育成を目指した指導の充実 ・教師一人一人の意識の高揚 ・人権週間・いじめゼロ運動の効果的な実施 ・望ましい集団・居がいのある学級づくり ・なかよし班活動(縦割り班活動)における「みんなで遊ぶ日」の時間の工夫と充実 ・なかよし班を通した縦割り班活動の工夫と活性化(まごころ清掃・長縄大会・児童会活動など) ・状況に応じた言葉遣いの励行 ・自然や人との関りの両面から児童の主体性と豊かな心を育て, まごころ教育の推進 	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 992 1458 1155"> <tr> <td>児童</td> <td>92.3%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>93.1%</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> </tr> </table> <p>・学校目標に応じて, 各学級で居がいのある学級づくりに努めた結果, 児童・保護者ともに昨年度と同程度の数値であった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き, HP や回覧板等で, 学校の取組について地域や保護者に周知をしていく。 ・縦割り班活動を活用できるような取組を引き続き検討していく。 	児童	92.3%	保護者	93.1%	地域住民	100%	教職員	100%
児童	92.3%											
保護者	93.1%											
地域住民	100%											
教職員	100%											

	<p>A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>⇒児童の肯定的回答 88%以上</p> <p>⇒保護者の肯定的解答 80%以上</p> <p>⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・折れない心・やり抜く心など心のたくましさ気付かせる授業の展開や実践の工夫 ・各種検定等、児童が目標を持って取り組める機会の確保 ・児童が互いに認め合う場の設定 ・児童の頑張りを認め、校外に発信していけるような取組の充実 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>91.1%</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>80.0%</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td></td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr> </table> <p>児童の肯定的回答が数値指標を3.1ポイント上回った。運動会等の行事や日々の教育活動を通して、児童に目標をもたせ、達成させるような指導を行った成果だと考える。保護者の肯定的回答は数値指標と同等だったが、昨年度と比較すると3.1ポイント低下した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き校内での児童の頑張りを様々な視点から認め、HPや学校だより等で保護者に発信していく。 	児童	91.1%	保護者	80.0%	地域住民		教職員	100%
児童	91.1%										
保護者	80.0%										
地域住民											
教職員	100%										
<p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】</p> <p>⇒児童の肯定的回答 90%以上</p> <p>⇒保護者の肯定的回答 85%以上</p> <p>⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の基本的な生活習慣を見直し、改善が図れるような指導の工夫と児童や保護者への啓発 ・養護教諭や学校栄養士と連携した保健の授業や特別活動等における食育の実施 ・委員会活動を通じた健康や体力向上、食に関する啓発活動の実施 ・各種たより等を活用した健康や食への関心を高める工夫 ・体育の授業、体育的行事を核とした体力づくりの実践 ・各種検定や全校で取り組む体力向上のための行事の実施 ・元気っ子健康体力チェックの活用 ・地域と連携した登下校時の安全確保 ・交通安全教室や各種避難訓練等の適切な実施 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>92.9%</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>93.3%</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>100%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr> </table> <p>児童・保護者・地域住民いずれも数値指標を上回った。校外に向けた情報の発信や、養護教諭や学校栄養士の巡回指導で個別に指導をしていたことが成果につながったと考える。また、高学年における心の健康観察を行ったことが、自己管理能力の育成の一助となったと考える。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、日々の健康や食育に関する指導を適宜行っていく。 ・児童の自己管理能力の育成につながるような取組を行っていく。 ・発達段階に合わせて、各教科、学級活動における養護教諭や学校栄養士と連携した授業を実施し、家庭でも振り返れるような取組を行っていく。 ・体育の授業でのがんばりカード等を活用し、児童が目標をもって、楽しみながら継続的に体力向上に取り組めるように支援を続けていく。 ・地域と連携した登下校指導を継続していく。 	児童	92.9%	保護者	93.3%	地域住民	100%	教職員	100%
児童	92.9%										
保護者	93.3%										
地域住民	100%										
教職員	100%										

1-(4)
将来への希望と協働する力を育む教育の推進

A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。

【数値指標】

⇒児童の肯定的回答

90%以上

⇒教職員の肯定的回答

90%以上

- ・係や当番等での自分の役割を自覚し、友達と協力して活動できる場の設定
- ・宮・未来キャリア・パスポートの振り返りを行う際の、前年度までの情報の有効活用
- ・学校活動全般を通したまごころ教育の充実
- ・みんなで遊ぶ日等における「なかよし班活動」と、「兄妹学年での交流活動」の活性化
- ・委員会活動全般の工夫

【達成状況】

児童	88.2%
保護者	
地域住民	
教職員	100%

宮・未来キャリア・パスポートの振り返りや指導を充実し、昨年度と比較して2.7%上昇したが、依然として児童の肯定的回答が数値目標を下回っている。

【次年度の方針】

- ・児童が頑張ったことや取り組めたことを称賛するとともに、宮・未来キャリア・パスポートの効果的な活用の方法について引き続き検討していく。
- ・縦割り清掃やまごころ清掃だけではなく、異学年での交流に積極的に取り組めるように、引き続き検討していく。

B

2-(1)
グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進

A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。

【数値指標】

⇒児童の肯定的回答

90%以上

⇒教職員の肯定的回答

85%以上

- ・外国語科や外国語活動の教材の積極的活用と環境整備
- ・コミュニケーション能力の育成を目指した授業内容の工夫
- ・学校生活におけるALTとの交流の充実

【達成状況】

児童	82.8%
保護者	
地域住民	
教職員	94.7%

外国語の授業において、ペアやグループ等の学習形態を効果的に取り入れることができた。

【次年度の方針】

- ・授業に必要な教材の工夫や環境整備を継続し、コミュニケーションの楽しさを味わわせる授業を展開する。

B

A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。

【数値指標】

⇒児童の肯定的回答

90%以上

⇒教職員の肯定的回答

90%以上

- ・生活科・社会科・総合的な学習の時間（宇都宮学）や校外学習等における指導内容の工夫や改善
- ・宇都宮や城山地域など郷土への愛情を育む学習の推進

【達成状況】

児童	89.9%
保護者	72.0%
地域住民	
教職員	94.7%

生活科や総合的な学習の時間での地元大谷や宇都宮の調べ学習等を行った。ホームページや学校だよりでの学習内容の周知や保護者の協力により、保護者の数値が上がった。

【次年度の方針】

- ・現在行っている様々な取組を継続するとともに、地元大谷だけではなく、宇都宮に対する知識理解をさらに身に付けられるように努める。

B

2- (2)
情報社会と
科学技術の
進展に対応
した教育の
推進

A8 児童は、デジタル機器
や図書等を学習に活用し
ている。
【数値指標】
⇒児童の肯定的回答
90%以上
⇒教職員の肯定的回答
95%以上

- ・学習者用デジタル教科書、AIドリルの活用
- ・クロームブック・デジタル機器を活用した授業の展開
- ・情報モラル・デジタルシティズンシップ教育に関する授業の展開
- ・学習内容の時期に合わせた関連図書の積極的活用

B

【達成状況】

児童	90.5%
保護者	88.3%
地域住民	
教職員	100%

学校生活全体において1人1台端末等を活用し、情報モラル・デジタルシティズンシップ教育を育むための指導を行うことができた。

【次年度の方針】

- ・児童が自ら考え、必要に応じて1人1台端末等が活用できるよう、継続した指導を行っていく。
- ・図書館司書と連携し、学校図書館教育年間指導計画に基づいた活動を展開していく。

2- (3)
持続可能な
社会の実現
に向けた担
い手を育む
教育の推進

A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。
【数値指標】
⇒児童の肯定的回答
90%以上
⇒教職員の肯定的回答
90%以上

- ・節電・節水・牛乳パックのリサイクル活動の充実
- ・「緑の少年団」活動を通じた自然愛の醸成
- ・各教科や日常生活の中でのSDGsを意識させる指導の工夫や環境整備
- ・土砂災害を想定した避難訓練の実施
- ・自然災害を取り上げた学習内容の工夫

B

【達成状況】

児童	90.5%
保護者	
地域住民	
教職員	100%

具体的な対策に取り組む中で、児童は、「持続可能な社会」について、関心をもつことができた。

【次年度の方針】

- ・学んだことを実生活に生かせるような指導を継続していく。

3- (1)
インクルー
シブ教育シ
ステムの充
実に向けた
特別支援教
育の推進

A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。
【数値指標】
⇒教職員の肯定的回答
95%以上

- ・個別の指導計画による指導の充実
- ・学級との交流や連携を図った指導の推進。
- ・特別支援教育コーディネーターを中心とした教育支援委員会の開催と共通理解。
- ・多様なニーズの理解と支援方法の明確化。
- ・学級における配慮児童の「かがやきルーム」の活用、個別の指導計画の作成。
- ・ケース会議による指導方針・成果と課題の明確化、及び情報共有。

B

【達成状況】

児童	
保護者	
地域住民	
教職員	100%

教職員の肯定的回答率は目標を上回った。個別の指導計画をもとに、個々の児童の実態に応じて適切な指導を行った結果と思われる。

【次年度の方針】

特別な支援を要する児童の実態を把握し、個に応じた支援につなげられるよう組織的な対応を充実させる。

3-(2)
いじめ・不登校対策の充実

A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。
【数値指標】
⇒児童の肯定的回答
90%以上

- ・「学校いじめ防止基本方針」に基づいた取組の推進
- ・「いじめ等対策委員会」の活用
- ・「いじめゼロ強調月間」及びいじめ撲滅集会の実施
- ・定期的なアンケートの実施と教育相談の充実
- ・潤いのある学校環境の整備
- ・「さん」付けの呼び方の徹底
- ・職員間での情報の共有や家庭との連携強化
- ・学校たよりやホームページでの周知
- ・道徳科の授業の充実

B

【達成状況】

児童	96.4%
保護者	76.1%
地域住民	100%
教職員	100%

教職員は、いじめに対する危機意識を常に持って児童の指導にあたっており、児童も十分理解している。解決のため家庭と連携した結果、保護者の肯定的回答の数値の上昇が見られる。

【次年度の方針】

- ・問題が起きた場合は、その都度記録をとり、必要に応じて指導の経過を保護者に伝え、引き続き、家庭と密に連携しながら基本方針に沿って指導にあたる。
- ・学校での取組について、学校だよりやHP等で積極的に保護者に周知をしていく。

A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。
【数値指標】
⇒児童の肯定的回答
90%以上

- ・不登校・不応等特別な教育的支援が必要な児童への対応（別室登校など）
- ・日常の観察・教育相談・Q-U調査等の実施による早期発見・早期対応
- ・ケース会議等による支援方法の明確化
- ・関係機関との連携と紹介
- ・職員間での情報の共有
- ・児童が互いに認め合う場の設定
- ・認め励ます指導の徹底

B

【達成状況】

児童	94.7%
保護者	82.4%
地域住民	
教職員	100%

教職員は、日頃から児童の様子を観察し、必要に応じて、教育支援委員会やケース会議等を行い、学校全体で対応している。また個に応じて、保健室などの別室登校を行っている。

【次年度の方針】

- ・来年度も引き続き、的確に児童の様子を把握することで、早期発見・対応に努める。必要に応じて保護者と面談を行い、家庭と連携しながら別室登校など、児童一人一人に合った支援を行っていく。

3-(3)
外国人児童生徒等への適応支援の充実

A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。
【数値指標】
⇒児童の肯定的回答
90%以上
⇒保護者の肯定的回答
85%以上

- ・教育相談・いじめに関するアンケート・Q-U調査の実施、活用による、学級内のよりよい人間関係づくりの推進
- ・児童一人一人のよさについて理解し、認め合い、励まし合う指導の推進
- ・職員間の情報交換の推進・機会の確保。
- ・適切できめ細やかな保護者への連絡による信頼関係の構築。

B

【達成状況】

児童	95.3%
保護者	81.3%
地域住民	100%
教職員	100%

児童は数値指標を上回ったが、保護者は下回った。教育相談、いじめアンケート、Q-U調査の実施により、普段からの児童の実態を把握することで、小さな変化やサインを想起に捉え、迅速に対応してきた。

【次年度の方針】

- 児童一人一人が生き生きと学校生活を送れるよう、職員間の情報交換の推進・機会の確保の充実を図る。

3-(4)
多様な教育的ニーズへの対応の強化

<p>4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 95%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導技術の確立と授業時数の確保。 ・TT・習熟度別学習の指導等の効果的実施。 ・学校だより、学習だより、ホームページ等による学習についての情報提供。 ・クロームブックの有効活用(AIドリルの計画的活用、学習の振り返り) ・個に応じた指導の工夫による、学習の基礎・基本の定着化 ・宇都宮モデル(はっきり・じっくり・すっきり)等を取り入れた授業の展開 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>93.5%</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>73.1%</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td></td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr> </table> <p>少人数指導やTT、習熟度別指導やICT活用、ペア・グループ学習を通して、学習指導の工夫・改善を図ってきた結果、児童・保護者ともに、数値指標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 児童一人一人の理解度や興味関心に合わせて学習内容の定着を図り、個に応じた「分かる授業」を徹底する。</p>	児童	93.5%	保護者	73.1%	地域住民		教職員	100%
児童	93.5%										
保護者	73.1%										
地域住民											
教職員	100%										
<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 95%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の諸問題への組織的な対応 ・学校行事の準備・運営等への協力 ・若手の先生や職員の得意分野を生かした組織づくり ・ミライムなどICTを有効活用した情報共有による、情報伝達の漏れを防ぎ、スムーズな連携の促進 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童</td><td></td></tr> <tr><td>保護者</td><td></td></tr> <tr><td>地域住民</td><td></td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr> </table> <p>児童指導に関する定期的な情報共有の場を設けたことで、教職員が一体となった組織的な対応が定着した。</p> <p>【次年度の方針】 ・心理的安全性の高い職場環境の構築に努め、迅速かつ確実な「報告・連絡・相談」を徹底する。 ・日常的なコミュニケーションの活性化を図り、組織機動力を高めることで、児童指導の質の更なる向上を目指す。</p>	児童		保護者		地域住民		教職員	100%
児童											
保護者											
地域住民											
教職員	100%										
<p>4- (3) 学校における 働き方改 革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・業務内容の明確化 ・学校の組織運営や各種行事等の精選や実施方法の工夫・改善 ・学習情報システム等の各種システムの効果的な活用の推進 ・担当業務の効率的な実施や見直しを持った計画的な処理 ・学級業務支援員の効果的な活用による事務負担の軽減。 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童</td><td></td></tr> <tr><td>保護者</td><td></td></tr> <tr><td>地域住民</td><td></td></tr> <tr><td>教職員</td><td>94.7%</td></tr> </table> <p>行事の精選や日課の工夫など、業務の効率化を推進した。また、学習情報システム等の積極的な活用により、校務のDX化およびペーパーレス化が進展し、事務負担の軽減に一定の成果が得られた。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き既存業務の見直しを図るとともに、更なるICTの活用を行い、教職員が児童と向き合う時間を確保するための職場環境整備に努める。</p>	児童		保護者		地域住民		教職員	94.7%
児童											
保護者											
地域住民											
教職員	94.7%										

<p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中合同の行事やあいさつ運動への積極的な取組 ・小中一貫教育だよりの配付 ・宮っ子チャレンジウィークにおける積極的な受け入れ ・冒険活動教室における交流活動の充実 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>89.6%</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>83.5%</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>100%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr> </table> <p>小中一貫だよりの定期的な発行や、冒険活動における共同の取組を充実させたことにより、活動に対する肯定的な評価が広がった。 【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校園内の小中学校と緊密に連携し、継続的な取組を推進する。 ・お便りの内容を児童生徒にも分かりやすく紹介するなど、さらなる周知と理解促進に努める。 	児童	89.6%	保護者	83.5%	地域住民	100%	教職員	100%
児童	89.6%										
保護者	83.5%										
地域住民	100%										
教職員	100%										
<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材の協力や企業・団体等との連携等、専門性を生かした学習の推進（環境教育） ・学校支援ボランティアの有効な活用の推進 ・地域協議会との連携（あいさつ標語、登下校の見守り、学校へ泊まろう！等） 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>96.4%</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>85.3%</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>100%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr> </table> <p>地域人材や学校支援ボランティアの協力により、教育活動の充実が図られた。特に、企業や専門家を招いた出前授業は、児童が本物の知見に触れる貴重な機会となり、学習に対する主体的な意欲を向上させた。 【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き地域の教育力を積極的に活用するとともに、企業・団体等との外部連携を深化させ、教育効果を高めるための指導方法の工夫・改善を推進する。 	児童	96.4%	保護者	85.3%	地域住民	100%	教職員	100%
児童	96.4%										
保護者	85.3%										
地域住民	100%										
教職員	100%										
<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の安全点検の実施 ・危険箇所等の迅速な報告・修繕 ・消防隊員による実技指導等の職員研修及びその内容の校外への発信。 ・保護者と連携した環境整備等、安全で安心な学校づくりへの取組 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>90.5%</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>90.5%</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>100%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr> </table> <p>・いずれの項目でも肯定的回答の割合を上回った。大きな事故も無く、感染症対策でも、迅速な状況判断ができたことで、多くの肯定的回答を得ることができたと考える。 【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校・保護者・地域・関係機関が相互連携して、安全で安心な学校づくりを推進する。 ・安全点検や清掃用具の点検、修理・修繕が必要な個所などを把握し、教職員で情報の共有や迅速な対応ができるようにする。 ・職員研修を通して、緊急時の対応について学べるようにする。 	児童	90.5%	保護者	90.5%	地域住民	100%	教職員	100%
児童	90.5%										
保護者	90.5%										
地域住民	100%										
教職員	100%										

6-(2)
学校のデジタル化推進

A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。
【数値指標】
⇒教職員の肯定的回答
95%以上

- ・授業準備や授業、業務の際の、一人一台端末、学校用グループウェア、校務支援システム、デジタル連絡ツールなどの積極的な活用
- ・ICT支援員との連携

【達成状況】

児童	
保護者	
地域住民	
教職員	94.7%

主な具体的な取組において、多くの教職員が積極的な活用をすることができた。

【次年度の方針】

- ・より積極的な活用が行えるよう、さらに研修を進めていく。

B

B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。
【数値指標】
⇒児童の肯定的回答
95%以上
⇒保護者の肯定的回答
80%以上
⇒地域住民の肯定的回答
90%以上

- ・家庭及び地域協議会と連携した地域ぐるみの「あいさつ運動」の展開
- ・小中合同の「あいさつ運動」の推進
- ・ホームページや、デジタル連絡ツールでの周知

【達成状況】

児童	93.5%
保護者	84.3%
地域住民	66.7%
教職員	94.7%

学校や地域でのあいさつの習慣化に努めてきたが、地域住民の肯定的割合が下がる結果となった。

【次年度の方針】

- ・登下校時の地域住民への積極的なあいさつを奨励する。

B

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等

B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。
【数値指標】
⇒児童の肯定的回答
90%以上
⇒教職員の肯定的回答
90%以上

- ・基本的な生活習慣と規範意識の育成
- ・規則の尊重、自律や諸問題の解決を題材とした授業（道徳・学級活動等）の実施
- ・「城央小のよい子」を活用した、統一的・継続的な指導
- ・家庭・地域・関係諸機関と連携した、安全な登下校体制の維持

【達成状況】

児童	88.2%
保護者	93.3%
地域住民	100%
教職員	94.7%

学校全体で、統一的・継続的な指導を行っているが、基本的な生活習慣やきまりを守れない児童の様子が見られた。

【次年度の方針】

- ・「城央小のよい子」をベースに、全職員の共通理解のもとで指導・支援にあたり、児童一人一人がきまりやマナーを守って生活できるよう、根気強く取り組む。
- ・校内だけではなく、登下校の安全についても十分に指導していく。

B

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

A 1「児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」の肯定的回答の割合は、児童、教職員ともにすべて昨年度より上昇した。学習指導に力を入れて取り組んでいる結果が表れている。学校での学習効果の高まりを保護者にも実感していただけるよう、さらなる学力向上を目指していきたい。

○A 3「児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」については、児童、教職員ともに肯定的回答割合が昨年度を大きく上回った。授業や学校行事において、自分なりのめあてを持たせ、その達成や解決に向けて努力するよう根気よく働きかけてきた結果であるとする。一方で、保護者の肯定的回答割合が昨年度と比較すると若干低下した。今後は、校内外における児童一人一人の頑張りを教職員間で情報共有するだけでなく、様々な視点から児童の前向きな姿を捉え、そうした姿を学校ホームページや学校だより、連絡帳などを通じて、保護者にも広く伝えられるよう心がけていきたい。

○A 5「児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。」の児童の肯定的回答率が昨年度よりも向上した。今後も肯定的な声掛けを継続し、児童がますます自分の良さや成長を実感できるようにしていきたい。また、縦割り清掃やなかよし班活動をはじめ、異学年での交流をさらに深められるような取組を検討していく。

・A 1 1「教職員はいじめが許されない行為であることを指導している」の保護者の肯定的回答の割合が5ポイント以上も上昇している。定期的なアンケートの実施や家庭との連携強化といったいじめ防止のための取組に力を入れてきた成果であるとする。ただ児童生徒の肯定的回答率が、高い水準を保っているもののやや低下しているため、今後も細やかな目配りと心配りを心掛け、いじめ防止と早期発見、解決のための様々な取組に力を入れていく。

○B 1「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」の肯定的回答の割合が、児童、教職員、保護者において昨年度より上昇した。特に保護者においては5.8ポイントも上昇している。しかし地域住民の肯定的回答率は昨年を大きく下回った。校内や、顔見知りの保護者へのあいさつに関しては意識が高まってきたものの、校外や地域においてはそれが十分に発揮できていなかったことが要因と推測される。身に付けたよい習慣を、校内に限らず日々の生活の中で無意識に実践できるレベルに引き上げられるようよう、さらに指導していく。

○B 2「児童生徒は、決まりやマナーを守って生活している。」については、昨年度に比べ、保護者、地域住民ともに肯定的回答率が大きく上昇している。家庭や地域において、落ち着いた生活が保たれているためと思われる。しかしながら児童の肯定的回答率は6.2ポイント低下した。「廊下は走らない」「チャイムの合図を守る」といった学校での基本的な生活習慣に対し、児童の間で意識の差が感じられる。「学校内での決まりに対する指導」に関して再度職員間での共通理解を図り、学校全体で児童へのきめ細やかな声掛けを行っていく。

7 学校関係者評価

・A 6「児童は英語を使ってコミュニケーションしている」に関しては、教師と児童との肯定的回答率のギャップが大きい。授業以外でも英語を使えるような環境づくりが必要かもしれない。子供に自信を待たせる雰囲気を作り出すことで、肯定的回答率も向上するのではないかと。

・A 8「児童はデジタル機器や図書等を学習に活用している」に関しては、今後さらに図書の貸出数を増加していくために、今まで以上の声掛けや図書室の積極的な活用ができるとよい。

・A 1 1「教職員はいじめが許されない行為であることを指導している」に関しては、学校だけでなく家庭との協力が不可欠。学校だより等で「いじめは絶対に許さない」という学校側の強い方針と、いつでも相談できるシステムについて広く伝えていくことが必要かもしれない。スマートフォンの普及によるSNSトラブルなどへの対応も今後力を入れていかななくてはならない。

・SNSなどでは、大人でも傷つくような表現があふれている。書いている本人と見ている相手との意識の差が生じやすいので、大切なことは口頭で伝えるようにする指導が必要かもしれない。

・B 1「児童は時と場に応じたあいさつをしている」に関しては、「はずかしい」という思いもあるのだろう。近所では親しげに声を掛けてくる児童も多い。どのような場面で、誰が「あいさつしましょうね」と声を掛けるのかも最近では難しい。知らない人に声を掛けられることを警戒する児童が増え、声を掛ける側の大人自身も躊躇してしまっているのではないかと。とはいえ、いろいろなところからあいさつの大切さを伝えていくことは重要である。地域としても今後も協力していきたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

本年度も学校・保護者・地域で連携を図り、協力しながら「学校ビジョン」の達成を目指して取り組んできた。特に学校評価アンケートの「回収率の増加」を目指した取組により、昨年度を大きく上回る回収率を達成することができた。（保護者回答率78.4%）保護者・地域の皆様のご協力に感謝している。

評価項目の肯定的回答の割合について、昨年度と比較すると、上昇したもの、下降してしまったものそれぞれ見られた。地域に信頼され、地域の核となる学校づくりをさらに推進していくため、本年度の成果と課題について振り返り、修正・改善を加えていきたい。また、これまでの取組を含め、今後の取組をさらに充実させながら再構築していくために、下記のような3つのプロジェクトを組織し、全職員が学校経営に参画できる工夫を行い、次年度の学校ビジョンに反映させていく。

